

# 環境活動レポート

## No.10

### (2015年度版)

2016年10月20日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2015年3月～2016年2月

## 経営理念

“私達は真心を大切にし、地域の産業発展と環境保全に貢献します。”

## 経営方針

1. お客様の満足を第一に考え、全社員が一丸となって行動します。
1. 安全を最優先に活動し、社員および関係者のしあわせを追求します。
1. 企業活動を通して互いに学びあい、成長・発展します。

## 環境方針

当社の経営理念および経営方針に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するよう努めます。
- ② 濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。  
また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するよう努めます。
- ④ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するよう努めます。
- ⑤ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑥ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑦ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑧ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定

2014年12月2日改訂

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城靖一

## 【1】事業活動の概要

### 1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城 靖一

### 2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 631 番地

電話：098-889-6166 FAX：098-888-3424

ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>

宮平 A ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 492-8

宮平 B ヤード：沖縄県島尻郡南風原町字宮平 791-3

友寄ヤード：沖縄県島尻郡八重瀬町字友寄 109-11

### 3) 事業の内容

- ・建設機械のレンタル・販売・修理
- ・赤土対策・濁水処理事業
- ・レンタカー事業

### 4) 事業年度

3月1日から翌年の2月末日まで

### 5) 事業の規模

活動規模	単位	2011 年度 2011.3～ 2012.2	2012 年度 2012.3～ 2013.2	2013 年度 2013.3～ 2014.2	2014 年度 2014.3～ 2015.2	2015 年度 2015.3～ 2016.2
売上高	百万円	337	351	354	376	368
社員数	人	27	27	29	29	28

### 6) 対象範囲

全組織、全活動

## 【2】環境目標とその実績

下記①～②より、目標値を設定した。

- ① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。
- ② 過去3年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より1%ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量は排出係数が毎年変わるために目標値は設定しない。

表1に過去3年分の実績値と‘15年度～’17年度の目標値を示す。

表1. 過去3年間の実績値と目標値

項目	単位	'12年度	'13年度	'14年度	基準値	'15年度 目標値 (基準値 -1%)	'16年度 目標値 (基準値 -2%)	'17年度 目標値 (基準値 -3%)	
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	745	769	689	689	682	675	668
	化石燃料	MJ/百万円	10,377	10,792	9,714	9,714	9,617	9,520	9,423
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.86	0.70	0.74	0.70	0.69	0.69	0.68
水資源投入量		m <sup>3</sup> /百万円	2.1	2.3	2.3	2.1	2.1	2.1	2.1
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数)	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	68.4 (0.903)	67.1 (0.858)	57.2 (0.816)	57.2			
	化石燃料	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	707	735	661	661	655	648	642
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	3.7	4.2	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.7	2.6	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	138	47	151	47	46	46	46
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	44	38	42	38	37	37	36
総排水量		m <sup>3</sup> /百万円	2.1	2.3	2.3	2.1	2.1	2.1	2.1

表2に目標値と結果及び評価について示す。

表2.目標値と結果及び評価

項目	単位	目標値	'15年度結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力	MJ/百万円	682	710	4.1 ×
	化石燃料	MJ/百万円	9,617	9,293	△3.4 ○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.694	0.701	1.1 ×
水資源投入量		m <sup>3</sup> /百万円	2.1	2.2	4.8 ×
温室効果ガス排出量	購入電力	kg-CO <sub>2</sub> /百万円			
	化石燃料	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	655	632	△3.5 ○
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	2.9	5.7	96.6 ×
	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	2.4	2.9	20.8 ×
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	46	70	52.2 ×
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	37.1	37.0	△0.3 ○
総排水量		m <sup>3</sup> /百万円	2.1	2.2	4.8 ×

### 【3】 主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

#### 環境方針①

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。	(1)発電機(出力15~60kVA)の内、極超低騒音型が占める割合を90%以上にする。  (2)レンタル用ハウスやバルーン投光器などの商品に、LED照明器具の導入を検討する。	2015年度は、発電機を極超低騒音型へ2台更新したことにより、全発電機に占める割合が目標値以上の91%を達成する事ができた。インバーター発電機も3台増機した。インバーター発電機は音圧レベル61dBで超低騒音型であり、グリーン購入法災害備蓄用品適合品である。また、LEDライトを増やした。LEDライトの消費電力は水銀灯500wの約1/10である。寿命も3倍以上あり交換の手間が省け効率的である。今後も、環境にかける負荷が少ない商品を導入していきたい。

## 環境方針②

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
濁水処理設備の更新による普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	(1)2014年度の濁水処理設備保有台数は34台で稼働率39%、土砂流出防止量は約145tであった。2015年度は、500型(30m³/hr処理)を2台増やして36台とする予定である。また、処理水をよりきれいにする装置と水質監視盤を導入する。今年度も環境関連情報の発信や環境に配慮した商品の普及に努める。	2015年度は約68tの土砂流出を防止した。 前年度は約145tであり、53%減少した。 今年度は濁水処理設備500型を2台増機し、保有台数が36台となったが、稼働率は34%で昨年度より低下した。特に800型の稼働率が低かった。また、雨が少なかったことも土砂流出防止量が減少した原因と考えられる。 今後は更に研鑽を積み、濁水処理事業をより充実させていくと共に、環境保全事業の拡充を図っていきたい。 2009年1月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。2015年度は47本、これまでに合計333本を移植放流した。

## 環境方針③

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	(1)電力 ①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ②昼休み時間は事務所の電灯を消灯する。 ③電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。 ④事務所および休憩室の冷房の温度を28°C以上、暖房の温度を23°C以下に設定し、夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。また、休憩室の冷房器具を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑤事務所のエアコン、プリンタ等を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑥パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。 ⑦休憩室にLED照明の導入を検討する。 ⑧太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。 ⑨必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。 ⑩作業場にグリーンカーテンの設置を検討する。 ⑪事務所入口に遮光ネットを設置し、地表温度を下げる取組をする。	昨年度より、全体の使用量が291kWh(1.1%)増加し、目標を達成できなかった。 昨年と比較して、事務所の使用量は減少した。事務所は、昨年より平均20分間早く終業できたため、エアコンと電灯による使用量が減少したと考えられる。今後も、使用している電気器具等のスイッチをこまめに切り、昼休み時間は消灯する等、さらに工夫を重ねて節電に取り組みたい。

<p>(2)水資源</p> <p>①節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。</p>	<p>事務所での水使用量は490 m<sup>3</sup>で、昨年より9.6%減少した。これはレンタル品のメンテナンスを委託しているワークプラス南風の作業所がヤードへ移動したためである。</p>
<p>(3)紙資源</p> <p>①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>②コピー用紙、名刺、トイレットペーパーなどは再生紙を使用する。</p> <p>③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。</p> <p>④裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をする。</p> <p>(4)廃棄物排出量の削減</p> <p>①一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン、新聞・チラシ、OA用紙、段ボール、雑誌)に分別する。</p> <p>②乾電池は、できるだけ充電式のものを使用する。</p> <p>③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。</p> <p>④裏紙をメモ用紙として再利用する。</p> <p>⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものを使用するように努める。</p>	<p>昨年度より投入量は7.5%減少しているが、目標値には達しなかった。</p> <p>昨年と比べて、特にコピー用紙と伝票の使用量を削減することができた。</p> <p>今後も文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で紙資源投入量の削減を図りたい。</p> <p>一般廃棄物は、再生利用、焼却発電ともに昨年を上回り目標を達成することができなかった。</p> <p>再生利用については、OA用紙、段ボールや雑誌に計測もれが疑われるため、計測の精度を上げる取組が必要である。缶、ペットボトルの量も増加しているため、社員の更なる意識向上を図り、廃棄物減量に取り組みたい。</p>
<p>(5)グリーン購入</p> <p>①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。</p>	<p>社内で使用する「紙」は再生紙を使用、「事務用品」などは詰替え用を使用するなど、品質や価格だけでなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。今後も、環境に配慮した商品の購入に努めたい。</p>

#### 環境方針④

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するよう努めます。	(1)電力 ①高圧洗浄機、タイヤ洗浄機の適切な使用を心掛ける。 ②電気器具のスイッチをこまめに切る。また、長い間使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。 ③使用しない電気器具は撤去する。 ④必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する。	昨年度より宮平 A ヤードで 21.3%、友寄ヤードで 11.3%増加し、目標を達成できなかった。 昨年と比較して、ヤードは社員および外注社員による利用が増えたため、洗浄機やエアコンの使用量が増えたと考えられる。
	(2)燃料 ①車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。 ②車両および建設機械の不必要的アイドリング、空ふかしの禁止。 ③安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避ける。 ④配送車両の過積載をしない。 ⑤車両の月次点検を行う。 ⑥地図等で確認して、適切な配送ルートをとる。 ⑦燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。 ⑧エコドライブ講習会を年 1 回以上実施する。	昨年度よりガソリンの使用量が 0.2%、軽油の使用量が 10%減少し、目標を達成できた。 当社の経営方針により、大型機械の保有数を減少させているため、大型機械および大型トラックの燃料である軽油の使用量が減少している。 またガソリンは、燃費効率が悪い軽トラックを更新したことと、遠方の現場が減ったため、使用量が減少したと考えられる。 今後も各車両別の給油量と走行距離を記録し、燃費効率が悪い車両の入替を行っていきたい。
	(3)水資源 ①できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。 ②節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。 ③機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理して再利用する。 ④雨水タンクの新設や増設を検討する。 ⑤仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を用いることによって、水の使用量を少なくする。	昨年度より投入量が 6%減少したが、目標は達成できなかった。 雨水や濁水処理設備による処理水の利用により、節水に努めている。今後も雨水や処理水の利用を徹底したい。
	(4)廃棄物排出量の削減 ①金属くずの分別を徹底する。 ②バックホー等に付着する泥をできるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。	再生利用は昨年度より 31,040kg 減少したが、目標は達成できなかった。単純焼却は 2,330kg 減少し、目標を達成した。昨年度は当社敷地に隣接する河川の拡張工事があり、ヤードを縮小させた為、整理整頓により産業廃棄物が大量に発生したが、今年はそういったことが無かった為再生利用、単純焼却ともに減少したと考えられる。 今後も機械・設備の点検を適切に行い、資源の再利用、廃棄物の分別を徹底していきたい。

<p>(5) グリーン購入</p> <p>車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努める。</p> <p>① 車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。</p>	<p>お客様へ環境にかける負荷が少ない商品を提供するため、環境負荷低減型商品の導入に努めてきた。昨年度は発電機を極超低騒音型へ2台更新した。また、投光器を光源が水銀灯のものからLEDへ変更している。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。</p>
--	---

#### 環境方針⑤

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめる。	管理方法、取扱い基準等を表にまとめた。
	(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて社内学習会を行う。(年1回)	2015年6月16日 当社が取扱う化学物質の特徴や取扱い方法等の学習会を行った。

#### 環境方針⑥

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	(1)環境問題について社内学習会を行う(年2回)	2015年8月11日 廃棄物の分別を確実に行うため、その方法や社内のルールについて学習会を行った。 年2回実施の計画であったが、2015年度は1回のみであった。次年度は事前に計画し、実施したい。
	(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	「環境活動レポート」は当社ホームページに掲載しているが、お客様や取引先等へ積極的に配布する事はできなかった。配布の方法等を再検討し、より多くの方へ情報提供を行いたい。また、ラジオ番組やCMを通して、当社の環境への取組や情報を提供した。
	(3)環境フェア等へ出展する。	2015年10月23日～25日「沖縄県中小企業家同友会業種四部会見本市」に参加し、濁水処理設備の紹介や環境活動レポートの配布等を行った。

**環境方針⑦**

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年3月と9月に確認する。	2015年3月25日と9月26日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。関連法規についての社員教育をさらに充実させたい。
	(2)環境関連法規についての社内学習会を行う(年1回)	2016年1月12日「沖縄県赤土等流出防止条例」について社内学習会を行った。

**環境方針⑧**

方針	2015年度の環境活動計画	2015年度の取組結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。	(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。 ①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年2回) ②環境委員会を定期的に開き(毎月1回)、環境委員のレベルアップを図る。 ③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。	エコアクション21の取組を始めた2006年度から、責任と権限を明確にした実施体制を構築し、環境保全活動をすすめてきた。 ①2015年12月2日 環境活動レポート2014年度版について、活動報告と説明を行った。 ②2015年度は環境委員会を10回開いた。 ③今年度は外部講習会に参加することは出来なかった。次年度は計画を立てて、参加したい。

#### 【4】10年間の環境活動の取組結果

表3に、当社が環境活動の取組を始めた2006年度から10年間の取組結果を示す。

表3. 10年間の取組結果

項目	単位	'06年度	'07年度	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度	'12年度	'13年度	'14年度	'15年度
総エネルギー投入量	購入電力 MJ	340,482	301,240	284,834	293,799	303,216	281,846	261,409	272,291	258,903	261,380
	化石燃料 MJ	4,278,362	4,280,260	3,469,190	2,840,798	3,237,059	3,343,952	3,642,502	3,820,325	3,652,583	3,419,962
総物質投入	紙資源投入 kg	273	259	228	242	229	160	303	248	278	258
水資源投入量		m <sup>3</sup>	1,014	869	821	749	726	878	754	825	824
温室効果ガス排出量	購入電力 (排出係数) kg-CO <sub>2</sub> ※	32,282 (0.932)	28,622 (0.934)	27,411 (0.946)	27,826 (0.931)	28,841 (0.935)	26,722 (0.932)	24,013 (0.903)	23,767 (0.858)	21,492 (0.816)	21,325 (0.802)
	化石燃料 kg-CO <sub>2</sub>	291,563	291,549	236,143	193,626	220,223	227,556	248,027	260,246	248,718	232,731
	合計 kg-CO <sub>2</sub>	323,845	320,171	263,554	221,452	249,064	254,278	272,040	284,013	270,210	254,056
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用) kg	0	788	1,001	516	1,280	1,350	1,298	1,483	1,103	2,114
	一般廃棄物 (焼却発電) kg	0	1,041	971	720	740	945	932	906	930	1,069
	産業廃棄物 (再生利用) kg	0	0	25,800	17,700	44,400	31,900	48,600	16,624	56,840	25,800
	産業廃棄物 (単純焼却) kg	35,100	33,500	31,700	25,300	30,800	19,600	15,600	13,280	15,930	13,600
総排水量	公共用水域 (m <sup>3</sup> )	m <sup>3</sup>	1,014	869	821	749	726	878	754	825	824
社員数(内パート)	人	21(2)	22(2)	23(2)	23(2)	24(2)	27(2)	27(2)	29(2)	29(2)	28(1)
売上高	百万円	352	362	360	347	341	337	351	354	376	368

※<sup>1</sup> 購入電力の排出係数は、沖縄電力の値を用いる。

※PRTR法による対象物質の取り扱いはありません。

ただし、ポリ塩化アルミニウム、高分子凝集剤、希硫酸、苛性ソーダ等を扱っているので、それらについては薬品庫に保管し、数量管理を行っている。

図1.過去10年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量(売上高百万円当たり)

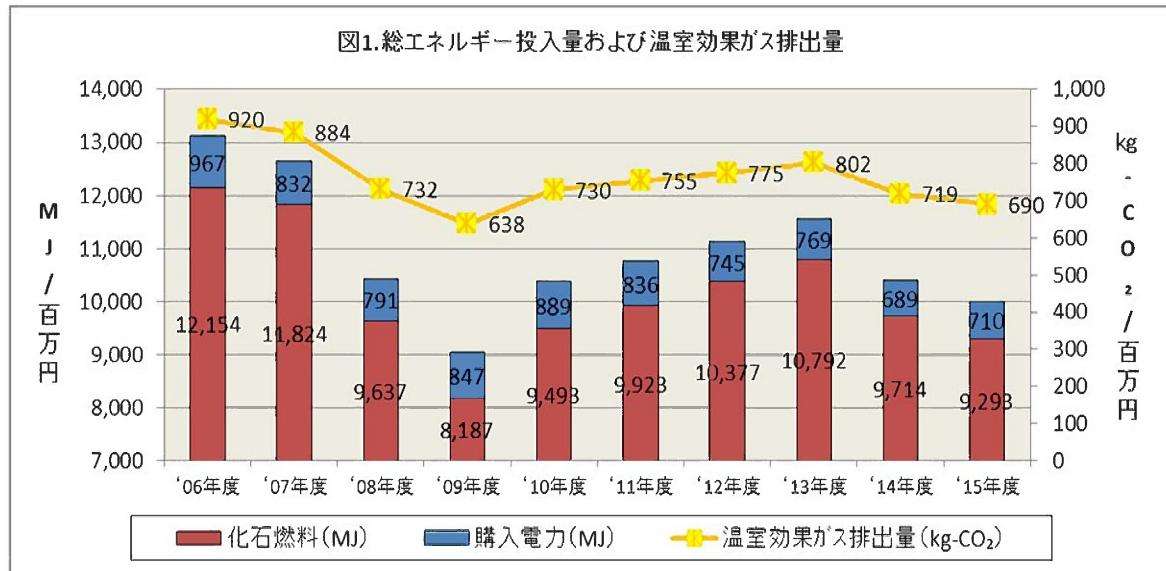


図1より、温室効果ガス排出量は、年度によりバラつきはあるが、全ての年度で取組を始めた2006年度を下回っている。2006年度の排出量を10年間続けた場合と比較して、この10年間で525,767 kg CO<sub>2</sub>の排出を抑制することができた。

図2.過去10年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

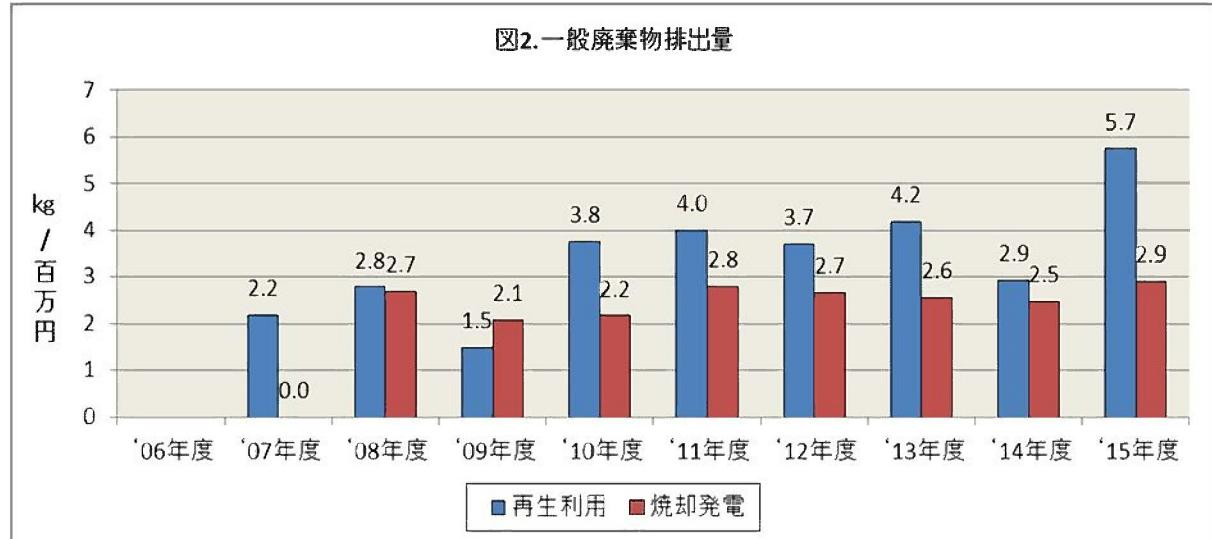


図2より、一般廃棄物排出量は、焼却発電は一進一退であるが、再生利用は増加傾向が見られる。

分別の徹底が進み、リサイクル率が向上していると考えられる。

図3.過去10年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

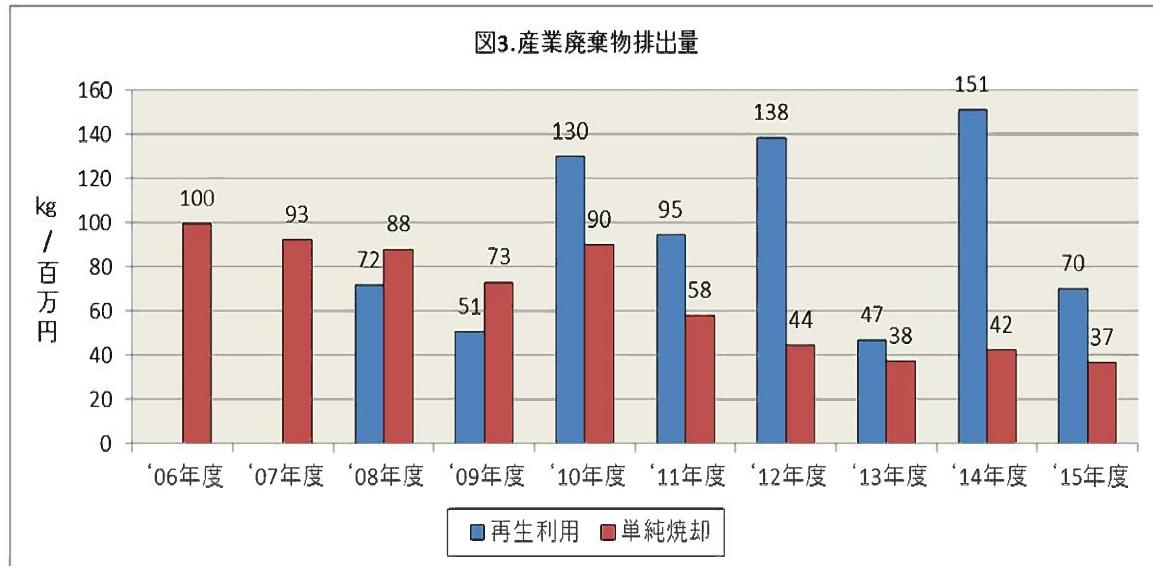


図3より、産業廃棄物排出量は、単純焼却は減少傾向が見られるが、再生利用は年度によりバラつきが見られる。

分別を徹底してリサイクル率が高くなったため、単純焼却が減少したと考えられる。

図4.過去10年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

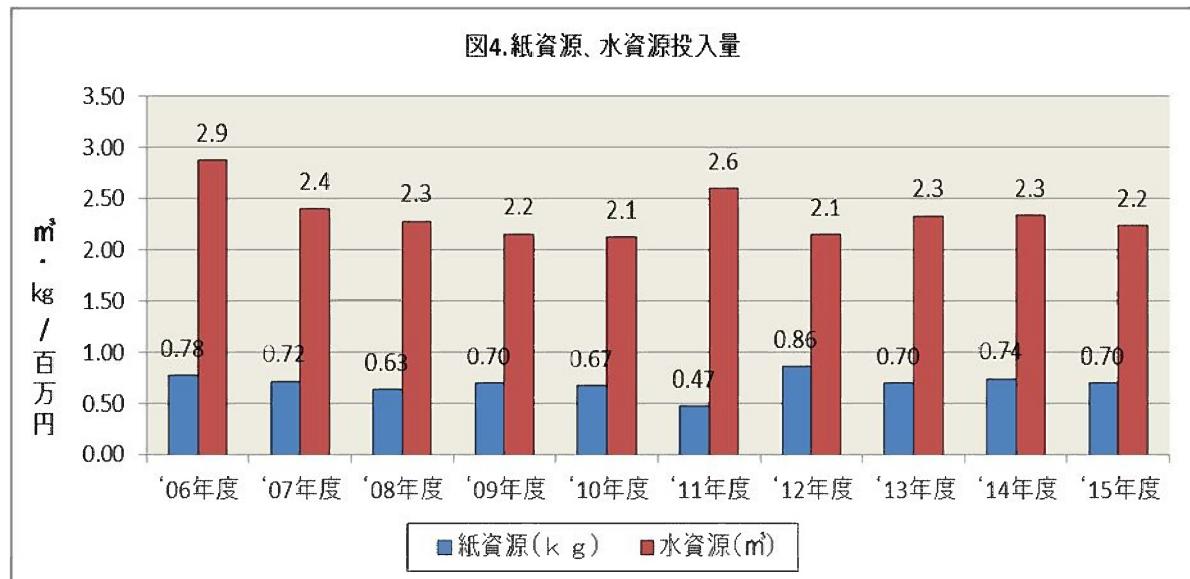


図4より、紙資源は大きな変動はないが、水資源は減少傾向が見られる。

表4に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表4.養殖サンゴの苗の移植放流数

申し込み年月	本 数	移植年月
2009 年度合計	17 本	
2010 年度合計	57 本	
2011 年度合計	62 本	社員分 27 本含む
2012 年度合計	28 本	
2013 年度合計	38 本	
2014 年度	2014 年 4 月	18 本 2014 年 8 月
	2014 年 9 月	16 本 2015 年 1 月
	2014 年 10 月	5 本 2015 年 2 月
	2015 年 1 月	10 本 2015 年 5 月
	2015 年 2 月 (35 周年)	35 本 2015 年 8 月
2014 年度合計		84 本
2015 年度	2015 年 5 月	7 本 2015 年 8 月
	2015 年 7 月	6 本 2015 年 10 月
	2015 年 9 月	12 本
	2015 年 11 月	4 本
	2015 年 12 月	6 本
	2016 年 1 月	12 本
2015 年度合計		47 本
合 計		333 本

2009 年度から「海の種」さんの協力を得て養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っている。7 年間で 333 本の移植放流を行った。

## 【5】次年度の主な活動計画

環境方針①お客様へ、できるだけ環境にかける負荷が少ない商品を提供するように努めます。

- ・極超低騒音型の発電機と LED 照明器具の導入を更にすすめる。

環境方針②濁水処理設備の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。

- ・お客様のニーズに対応した濁水処理設備や計測設備の開発・製造をすすめる。

環境方針③沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、「海の種」の協力により養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。

- ・引き続き、濁水処理設備を 1 台納入するごとに、養殖サンゴの苗 1 本を移植放流する活動に取り組む。

環境方針④オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。

- (1) 電力 … 電気器具のスイッチをこまめに切り、昼休みは消灯する等工夫を重ねて節電に取り組む。

- (2) 水資源 … 節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。

- (3) 紙資源 … 文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で削減を図る。

- (4) 一般廃棄物 … 分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をする。

- (5) グリーン購入 … チェックリストを作成し、環境に配慮した商品の購入に努める。

環境方針⑤使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。

- (1) 電力 … 高圧洗浄機等の適切な使用により、節電に取り組む。

- (2) 燃料 … 安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避ける。

エコドライブ講習会に未受講の社員を参加させる。

- (3) 水資源 … 雨水や処理水の利用を徹底する。

- (4) 廃棄物排出量の削減 … 資源の再利用、廃棄物の分別を徹底する。

環境方針⑥化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。

- ・化学物質の適正な管理を徹底する。

- ・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行う。(年 1 回以上)

環境方針⑦持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。

- ・環境問題について社内学習会を行う(年 2 回)

・お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM 等を活用して環境情報を提供する。

- ・中小企業家同友会の「業種四部会見本市」に出展する。

環境方針⑧環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。

- ・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を 3 月と 9 月に確認する。

- ・環境関連法規についての社内学習会を行う(年 1 回以上)

環境方針⑨全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

- ・全社員でエコアクション 21 の取組状況を確認し、改善点等について検討する(年 2 回)

- ・環境委員会を定期的に開き、環境委員のレベルアップを図る。(月 1 回以上)

- ・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加する

## 【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は 1987 年 5 月設立以来、1 件もありません。

## 【7】代表者による全体評価と見直し

本年度は、北海道に立て続けに台風が上陸したり、東北の太平洋側に台風が上陸するなど、観測史上初めてということが多くありました。その土地に暮らす人たちの声も、「こんな事初めて」「こんなことになるなんて」ということばかりでした。

また、熊本では発生確率が少ないと言われていた大きな地震が起り、その後の雨による水害で大変な被害を受けたことは心が痛みます。

一方、台風銀座と呼ばれてきた沖縄県では、台風の上陸が少なく、被害も多くは聞かれませんでしたが、海の中では海中がかき回されず海中温度が上がり、サンゴの白化現象や、生態系に大きな影響を与えていると聞きます。これも地球温暖化による影響なのでしょうか？

人間にとって都合のよい環境は、自然を壊している事を十分に認識しながら活動していく必要があると思います。私たちにできることは小さなことだと思いますが、出来ることを少しづつ続けていき、後世に恥ずかしくない行動をして行きたいと思います。

さて、本年度の“環境活動レポート”は、昨年よりも見やすく、理解しやすい内容と鋭い考察になっていると思います。毎日の測定や記録・分析など、環境委員をはじめとする社員の日頃の活動と意識の高さに感謝します。

電気・水・紙・燃料等の資源の使用抑制や廃棄物の排出削減は、現在のレベルを維持・向上していくことを期待します。

今後は、レンタル協会で取り組んでいる不法燃料使用の根絶（通称オフロード法）にも積極的に参加し、行政機関や取り締まり機関への働きかけをしていきます。また、太陽光や風力など自然エネルギーの活用を考えていきたいと思います。最後に、自然災害により被害を受けた地域の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

平成 28 年 9 月 15 日  
代表取締役 宮城靖一

初版 2016 年 10 月 20 日発行

2016 年 12 月 20 日改訂 表 1～3 の温室効果ガス排出量の CO<sub>2</sub> 排出係数を訂正する。